



デアラス・オーンストン

トロント大学マंक国際問題研究所准教授

専門は北欧諸国の比較政治経済学。特にイノベーション及びイノベーション政策に関わる協同の原因と結果を研究の主題としている。初の著作となった『小さな国が大きな飛躍を遂げるとき（原題：*When Small States Make Big Leaps*）』（Cornell University Press, 2012）では、デンマーク、フィンランド及びアイルランドがいかにして官民、労使及び企業間の協同をテコとして新たな先端技術市場に参入したかを描き出している。また『腐敗するグッド・ガバナンス（仮訳）（原題：*Good Governance Gone Bad*）』（2018年刊行予定）では、凝集的かつ包括的なネットワークが抜本的な改革や再構築を容易にする一方で政策の行き過ぎや壊滅的な経済危機を招き得ることを明らかにしている。他に、*Comparative Political Studies*、*Comparative Politics*、*Governance*、*Review of Policy Research*、*Socio-Economic Review*、*West European Politics*、欧州復興開発銀行、OECD や世界銀行の刊行物等に著作が掲載されている。マंक国際問題研究所着任以前は、カリフォルニア大学バークレー校で政治学の博士号を取得した後、ジョージア大学及びジョージア工科大学勤務。